

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:18.

3交代制正循環シフトから2交代制12時間勤務導入後の評価～疲労蓄積度調査から

中村 智美

3交代制正循環シフトから2交代制12時間勤務導入後の評価 ～疲労蓄積度調査から

旭川医科大学病院 9 東ナースステーション 中村智美

【目的】 A病棟は高度急性期外科病棟で、看護師の夜勤交代制勤務は、H23年に3交代制・正循環シフトを導入した。これは「夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」（以下ガイドラインとする）のうち、「基準10：交代の方向」に重点をおいた勤務編成である。この勤務体制評価から、A病棟では、夜勤負担軽減をはかることを目的に、3交代制から2交代制12時間勤務（以下2交代制）を導入した。本研究では、2交代制導入前後に実施した看護師に対する疲労蓄積度の変化を明らかにし、今後の夜勤交代制勤務の課題を検討する。

【方法】

1. 対象：H29年4月からH30年3月にA病棟に在籍した看護師のうち、3交代制から2交代制の移行を経験した31名。
2. 調査内容
 - 1) 「労働者の疲労蓄積度チェックリスト（厚生労働省）」の自覚症状評価と、アンケート調査を実施した（導入前・導入3ヵ月後）。疲労蓄積度調査はMann-WhitneyのU検定で統計解析した。
 - 2) 超過勤務時間平均（導入前・導入後）

【倫理的配慮】 所属施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】 平成29年11月から2交代制を導入した。勤務時間は長日勤（8:30～21:15）、12時間勤務（20:00～9:00）とした。ガイドラインの「基準9：週末の連続休日」は100%実施した。

- 1) 疲労蓄積度調査結果（回収率71%）、自覚症状点数合計は導入前 10.545 ± 5.501 （mean \pm SD）・導入3ヵ月後 10.045 ± 5.996 で有意差はなかった。属性別（年代・既婚）で導入前後の自覚症状点数合計に有意差はなかった。アンケート結果、導入3ヵ月後「夜勤に伴う身体的負担」「休日を有効活用」「疲労が次の勤務までに回復」で有意に改善（ $p < 0.05$ ）、「夜勤に伴う精神的負担」「夜勤時休憩時間の確保」では有意差はなかった。
- 2) 超過勤務時間平均は、3交代制（H29年8月～10月）9.4時間/人、2交代制（H29年11月～H30年2月）6.72時間/人であった。

【考察】 ガイドライン「基準7：夜勤時の仮眠時間」以外は満たした勤務体制を整えた。2交代制は3交代制正循環に比べ勤務時間が長いですが、疲労蓄積度に差はなかった。前後に夜勤のない連続した休日の確保し易さから、次の勤務までに疲労が回復できる勤務形態であることが示唆された。

【結論】 1.高度急性期外科病棟で3交代制正循環シフトから2交代制12時間勤務を導入した。2. 3交代制正循環シフトから2交代制勤務3ヵ月後の疲労蓄積度に差はなかった。